



建築人

7
2016



大阪ホンマもん

建築人

7
2016

目次

2	大阪ホンマもん
4	インフォメーション・事業案内
6	動静レポート
7	Topics
8	匠の巧
10	「クロスのひび割れ」あきらめるその前に 奥地建産株式会社
14	第8回建築人賞発表
	Gallery 建築作品紹介
	城東区複合施設
	設計 日建設計 施工 浅沼組
	月の輪学院
	設計 二井清治建築研究所 施工 安部工務店
17	記憶の建築 松隈洋
	世田谷区民会館・区庁舎 一九五九・六〇年
	都市のコアに託された情景
18	建築の射程 植地 惇
	「関わり続ける」ことから生まれる地域との協働によるまちづくりの実践
20	ひろば『今、自治体のアツイところ！』阪南市 福永利尚
	誰もが住んでみたい、住んでよかった 阪南市
26	理事会報告 建築相談室から 編集後記

建築士会 事業活動への参加について

大阪府建築士会副会長 田中義久



時代の趨勢は個々人の直感的表層的な要望を
集積して大きな流れを生み出すが、その流れの中
に身を置くと各個人の持つ深くして真の感情は反映
されることなく滔々と流れていく。それを嫌うなら
その流れからドロブアアウトして孤高の存在に身を
委ねるしかない。そうすると今度はその孤独にいた
たまれず、再びその流れに投ぜざるを得ず、さらに
深い失望と哀しみを抱いてしまう。古来より帰去
来辞の陶淵明や近代では藤沢周平の作品が好ま
れるのは、多かれ少なかれそのような悩みや迷いを
作品に感情移入すること起因するのだ。しかし最
後には、大きな流れに身を任せて心の折り合いをつ
けながら歩み続けるしかない事に気付くのである。

建築士会活動に参加するということは、そのよ
うな相容れない感情の葛藤を間接的にはある
が、解決してくれるような気がする。それは委員
会活動を行うことのみならず、さまざまな行事
や研修に参加することによつても深く感じること
である。さらに、自らの生業の基礎となる技術
や素養の蓄積に大いに寄与してくれるのである。
結果として「建築」というキーワードを共有
する知己に恵まれたり、今は未経験ではある
が、将来経験するであろう建築手法を疑似体
験できたり、デザインモチベーションなどの良い
刺激を受けることとなる。

無論それら効果の大小は各人の心の持ち
様に依るが、緻密に計画された事業への参加は
何らかの良きモノを得ることができると思う。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

建設関係者なら、必ずお世話になっている接着剤。
その中でも合成接着剤「ボンド」のメーカーとして
有名なコニシ株式会社をご存知の方も多いと思う。
会社は明治三年（一八七〇年）に薬種商を買取
し大坂薬種卸商組合に登録したことが始まりとさ
れる。二代目の小西儀助氏はその優れた商才でア
ルコールや洋酒の製造を手懸け、その取り組みはサ
ントリーやアサヒビールの創業につながった。儀助氏
は、その後、工業薬品、化学製品と取扱業種を広
げ、第二次世界大戦後は化成品の商社のみならず、
合成接着剤のメーカーとしても発展させた。

大阪船場、道修町に今も残る和風の商家は、儀助
氏が指揮を執り建設が進められ、着工から三年後の
明治三六年（一九〇三年）に竣工した。屋敷は、道修
町に面して主屋、伏見通りに面して蔵、そして堺筋
に面して貸家を配置した。また、儀助氏は材質や意
匠にもこだわり、茶室などにその工夫が見て取れる。
漆黒の木造建物群は、三度の戦火や震災などを
経験し、その度に時代に合った改修を施してきた。
しっかりと地に足がついた造りは決して華美ではな
いが、当時の大店の模範として、当時を窺い知るこ
とができる貴重な文化財である。

建築人 7 2016

監修 公益社団法人大阪府建築士会
建築情報委員会
編集 建築情報委員会『建築人』編集部
委員長 飯田英二
編集人代表 荒木公樹
編集人 河合哲夫 黒川祐樹
中江 哲 橋本頼幸
丸子勇人 牧野隆義
事務局 山本茂樹 母倉政美
印刷 中和印刷紙器株式会社

建築士の会「堺」 堺市まちあるき&さかい利晶の杜 見学会

7/16 CPD3単位(予定)

今回「建築士の会 堺」では、堺まちあるきと「さかい利晶の杜」の見学を行い、その後、「堺の景観行政について」の講演会を開催いたします。終了後、懇親会も予定しています。

日時 7月16日(土) 13:30 集合・受付
14:40~15:00 堺まちあるき
(堺市役所~妙国寺~本願寺堺別院
~町屋の用途変更~山口家住宅)
15:15~15:30 阪堺電車にて移動
15:30~16:30 「さかい利晶の杜」見学
16:30~17:00
講演会「堺の景観行政について」
講師 堺市都市景観室より
17:30~ 懇親会

集合場所 南海高野線「堺東駅」南側改札口
定員 30名(申込先着順)
参加費 1,000円(資料代、保険代含む。)
※各施設の入場券及び阪堺電車の乗車券は各自で購入してください。
※懇親会参加の場合は、別途4,000円程度必要です。

「四国バスツアー」~四国ドック進水式 と旧金毘羅大芝居(金丸座)見学~

8/22 CPD4単位

「建築士の会 北摂」では四国ドッグの進水式と造船所の見学会を企画しました。その道中で昭和45年に国の重要文化財に指定された、現存する日本最古の芝居小屋(1835)と言われている旧金毘羅大芝居(金丸座)や高松の路地裏のオシャレな倉庫街「北浜alley」も見学する予定です。

日時 8月22日(月) 6:45~19:30
集合 西梅田 大和ハウス前 6:45
(時間厳守)

定員 28名(申込先着順)
参加費 会員6,500円 会員外7,500円
(バス代、保険代、入館料を含む)
事前振込(7月25日(月)までに)

第59回建築士会全国大会 「大分大会」

10/22

全国大会を今年は大分県で開催します。本大会員には大会登録料5,000円を補助します。
テーマ 「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」
で地域の創生 おんせん県おおいとで湧き上がる多様な知恵
日程 10月22日(土)
会場 別府国際コンベンションセンター
ビーコンプラザ、別府市公会堂
※地域交流見学会は10月23日(日)に実施
申込 建築士5月号P30の参加申込書に必要事項をご記入のうえ、本会事務局まで提出。
締切 7月29日(金)
大会の詳細は「建築士5月号」をご覧ください。

本会の催し参加問合せ・申込先

大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP <http://www.aba-osakafu.or.jp/>

Administration

行政からのお知らせ

第6回みどりのまちづくり賞(愛称: 大阪ランドスケープ賞)作品募集

6/1~7/29

「まちが美しくなるみどりづくり」「まちが笑顔になるみどりづくり」への取り組みを表彰する、上記賞の対象となる作品を募集中です。周辺の街並みと調和して美しい景観となっているビルや商業施設等の屋外空間(デザイン部門)、美しい景観や憩いの空間を提供している市民活動等(マネジメント部門)が応募対象です。
主催 大阪府、(公財)国際花と緑の博覧会記念協会、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関西支部
募集期間 6月1日(水)~7月29日(金)
問合せ 大阪府都市整備部都市計画室公園課
地域まちづくり支援グループ
Tel.06-6944-7594(直通)
詳細は、以下のホームページをご覧ください。
<http://www.pref.osaka.lg.jp/koen/jigyuu/machizukurisyo.html>

「第30回大阪市ハウジングデザイン賞」推薦募集

6/1~7/15

デザイン、住みごこちや人にやさしい住まいづくりの観点から優れているもの、既存建物を有効に活用し優れた改造等が行われているもの、維持管理が適切に行われ、住宅や住環境が良好に保たれているものなどを表彰します。推せんをいただいた方の中から抽選で50名の皆様にレインボーカード(500円分)をプレゼントします。
募集期間 6月1日(水)~7月15日(金)
対象となる住宅
大阪市内に建つ民間の「共同住宅」「長屋」「戸建住宅の集合」で、概ね5年以内に建築または改造された魅力ある良質な住宅や完成後20年を経過し維持管理が良好な住宅
問合せ 大阪市都市整備局企画部住宅政策課
民間住宅助成グループ
Tel.06-6208-9228
<http://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000352241.html>

超高層建築物等における南海トラフ沿いの巨大地震による長周期地震動への対策について

国土交通省において超高層建築物等における南海トラフ沿いの巨大地震による長周期地震動への対策が取りまとめられ、平成28年6月24日に公表されました。対象地域内において、平成29年4月1日以降に申請する性能評価に基づき超高層建築物等を新築する際の大匠認定の運用を強化するとともに、同区域内の既存の超高層建築物等について、対策を定める地震動の大きさが設計時の想定を上回る場合には、大きな揺れによる家具の転倒、内外装材や設備の損傷等による危害が発生するおそれがあることから、自主的な検証や必要に応じた補強等の措置を促すものです。
詳細は以下の国交省ホームページをご覧ください。
http://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/build/jutakukentiku_house_fr_000080.html

「(仮称)大阪新美術館」の公募型 設計競技の実施(予定)「大阪市」

「(仮称)大阪新美術館」について、平成33年度中の開館をめざし、大阪の新たな文化芸術拠点として国内外からも注目を集める美術館にふさわしい設計提案を広く求めるため、公募型設計競技を実施します。8月上旬に設計競技の実施要領の公告を行い、年度内に最優秀案を選定する予定です。
■公募型設計競技(予告)
・計画概要
所在地:大阪市北区中之島4-32-14
敷地面積:約13,000㎡
延床面積:美術館 約15,000㎡
(駐車場、駐輪場の面積は含まず)
サービス施設 約500~1,000㎡
(カフェ、レストラン、ミュージアムショップ等)
公告時期:平成28年8月上旬(予定)
問合せ 大阪市都市整備局公共建築部
企画設計課企画設計グループ
Tel.06-6208-9348

「CADオペレータ」「設計補助」「インテリアコーディネータ」など芦原高等職業技術専門学校訓練生への求人のお願

大阪府立芦原高等職業技術専門学校は、大阪府が設置する公共職業訓練施設です。「建築内装CAD科」では、建築・インテリア業界で活躍できる人材を育成するため、建築の基本知識、建築製図、AutoCAD操作、積算、インテリアコーディネート、プレゼンテーション手法などの訓練を行っています。訓練生は修了後、建築設計事務所や工務店等への就職を希望しています。求人をお考えの企業の方は、是非、同校までご連絡下さい。
なお、在校生のプロフィールはホームページで公開しています。
<http://www.pref.osaka.lg.jp/tc-ashihara/top-page/jigyonyushi.html>
問合せ 芦原高等職業技術専門学校就職担当
Tel.06-6561-5383

(参考)建築内装CAD科の概要
訓練期間 6ヵ月(9月・3月修了)
定員 各20名
取得資格 CADトレース技能審査等

Others

その他のお知らせ

建築確認申請(建築設備)参考標準図等説明会

7/25

近畿建築確認検査協会では、確認申請書に添付する建築設備図や明示すべき事項についての標準図等を取り纏め、本書の内容について、説明会を開催します。本書は、申請者や確認審査機関の皆様が、申請図書の作成や審査の参考図書としてご活用いただき、効率的に業務が行えることを目的としています。

主催 近畿建築確認検査協会
日時 7月25日(月) 14:00~16:00
(受付13:30)
場所 エル・おおさか 本館6階大会議室
参加費 無料
説明者 近畿建築確認検査協会設備ワーキングメンバー
定員 200名 ※各社1名以内
(定員になり次第締切)
申込締切 7月15日(金)
問合せ 近畿建築確認検査協会事務局
(一般社団法人大阪建築防災センター内)
Tel.06-4794-8270

第38回<プロのノウハウ>講座 「直感で理解する!構造設計の基本」

8/5 CPD2単位

日本建築協会企画の「直感で理解する!構造設計の基本」が出版され、記念講演会を行います。同書は、構造設計の心得や実務を行う目的の付け処をイラストや写真、図表を用いて平易な文章で解説したものとなっており、デザイナー・意匠設計者、現場施工技術者の方にも構造設計との係わりを理解する上で解り易い内容です。本講演会は、同書をテキストとして解説します。
主催 (一社)日本建築協会
日時 8月5日(金) 18:00~20:00
会場 TOTOテクニカルセンター大阪
大阪市中央区久太郎町3-6-8
御堂筋ダイワビル2階
最寄駅 地下鉄本町駅
講師 山浦晋弘 定員 50名
受講料 一般1,500円
テキスト 「直感で理解する!構造設計の基本」
当日、定価2,592円(税込)を、特価2,300円(税込)で提供。
問合せ・申込 (一社)日本建築協会 担当:廣瀬
Tel.06-6946-6981
E-mail:hensyu2@aaaj.or.jp

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

公立学校施設や沿道建築物などの耐震不適格建築物について、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)

- 耐震診断報告書の審査、評価
- 耐震補強計画書の審査、評価等

(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。詳細は、本会ホームページをご覧ください。

平成28年度建築士定期講習

9/28、10/26、11/17
CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成25年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず受講してください。

日程

- 9/28(水) 定員100名 会場コード5C-52
- 10/26(水) 定員100名 会場コード5C-03
- 11/17(木) 定員100名 会場コード5C-53

会場 大阪府建築健康会館

時間 9:30～17:00

申込必着日

- 9/28(水) 講習:8/24(水)
- 10/26(水) 講習:9/21(水)
- 11/17(木) 講習:10/13(木)

※簡易書留での郵送のみ受付いたします。

※各回定員に達し次第、受付を終了します。
受講料 12,960円(消費税含)

申込書配布・受付場所

- 大阪府建築士会事務局
- 大阪府建築士事務所協会事務局

大阪府知事指定講習
平成28年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》
8/18・1/26 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。したがって、変形能力が高い伝統構法の民家や社寺建築の耐震性能を多角的に評価でき、一般診断法では不可能な変形能力や減衰性能を考慮した合理的な補強計画やダンパーを用いた最新技術による制振補強も可能となります。この機会に限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務に活用されますようご案内いたします。

日程 ①8月18日(木) ②1月26日(木)

時間 10:00～16:30

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車

定員 各120名(定員になり次第締切)

受講料 会員6,000円 会員外8,000円

テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

大阪府知事指定講習
平成28年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》
9/8・12/8・2/9 CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習は、国土交通大臣登録講習ではありません。耐震改修促進法により耐震診断が義務付けられた建築物の耐震診断は、日本建築防災協会が実施する登録講習を受講する必要があります。)

日程 ①9月8日(木) ②12月8日(木)

③平成29年2月9日(木)

時間 10:00～15:50

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車

定員 各120名(定員になり次第締切)

受講料 会員5,000円 会員外9,000円

テキスト代 7,200円
(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

監理技術者講習

(管理技術者以外の方も受講可能)
7/12、8/9、9/27、10/13、11/22、12/16
CPD各6単位

監理技術者は、工事請負金額3,000万円(建築一式工事は4,500万円)以上の請負工事への配置と、5年ごとに監理技術者講習を受講することが建設業法で義務付けられています。本講習では建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供します。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひ受講下さい。

日程 7/12(火)、8/9(火)、9/27(火)、

10/13(木)、11/22(火)、12/16(金)

時間 9:00～17:00

会場 大阪府建築健康会館

最寄駅 地下鉄谷町四丁目駅

定員 各回90名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込み9,500円

郵送・窓口申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会ホームページからお申込下さい。

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

長期優良住宅化リフォーム推進事業の講習団体登録
建築士会インスペクター養成講座
8/23・11/24・3/1 CPD5単位

わが国でも中古住宅の流通の取組みが活発化しており、中古住宅売買時のインスペクション(住宅診断)のニーズが高まっています。国土交通省は平成25年6月にガイドラインを策定し、指針を示しました。日本建築士会連合会は、長期優良住宅化リフォーム推進事業におけるインスペクター講習団体として国土交通省に登録しております。本講座修了者は、建築士会インスペクターとして登録(3年更新)され、建築士会ホームページに掲載します。

日程 ①8月23日(火) ②11月24日(木)

③平成29年3月1日(水)

時間 9:50～16:20

会場 大阪府建築健康会館6階ホール

定員 100名(定員になり次第締切)

受講料 会員12,000円 会員外17,000円
(テキスト代・登録料含む)

平成28年度大阪府ヘリテージマネージャー育成講座(全10日間)
8/27～1/28 CPD1日4単位(予定)

本講座は、文化庁の補助を受け、大阪府のさらなる歴史文化遺産を発見し、既に指定されている文化財建造物や登録文化財等の活用と保存を推進し、まちづくりに活かす能力を持った人材「ヘリテージマネージャー」を育成することを目的に行う講習会です。全10日間の講座で歴史、修復技術、実測実習、保存活用などの基礎を学びます。

日程 ①8月27日 ②9月3日 ③9月24日

④10月8日 ⑤10月15日 ⑥11月5日

⑦11月12日 ⑧12月3日 ⑨1月14日

⑩1月28日(全10日間・土曜日)

時間 13:00～17:00(全日共)

場所 中之島図書館別館他

募集 30名(申込先着順)

受講料 会員25,000円 会員外30,000円

申込 7月11日(月)午前10時より本会ホームページからWEB申込してください。

「第36回大阪都市景観建築賞(愛称大阪まちなみ賞)」推薦募集
7/1～7/31

本会と大阪府・大阪市・(一社)大阪府建築士事務所協会・(公社)日本建築家協会近畿支部・(一社)日本建築協会の6者で構成する大阪都市景観建築賞運営委員会では、「第36回大阪都市景観建築賞(愛称 大阪まちなみ賞)」の推薦受付を7月1日(金)～7月31日(日)まで行います。「大阪まちなみ賞」は、美しく、個性と風格のあるまちの景観づくりを進めていくために、周辺景観の向上に資し、かつ景観上優れた建物や建物を中心としたまちなみを広く一般から推薦していただき、その中で特に優れたものを表彰するものです。「大阪まちなみ賞」では、大阪府知事賞、大阪市長賞、審査員特別賞、建築・サインアート賞、緑化賞、奨励賞を設けています。自薦による応募も受け付けています。推薦対象 推薦の対象となるものは、大阪府内の建物や建物を中心としたまちなみで応募要件を満たすもの。

推薦方法 大阪まちなみ賞HPからご推薦ください。自薦の方は、自薦専用書式(建物・建物を中心としたまちなみ)を同HPよりダウンロードして、必要事項をご記入の上お送りください。

受付期間 7月1日(金)～7月31日(日)
(当日消印有効)

詳しくは大阪まちなみ賞HPをご覧ください。
<http://osaka-machinami.jp/>

問合せ 大阪都市景観建築賞運営委員会
(公社)大阪府建築士会内
Tel.06-6947-1961

大阪建築コンクール60回記念イベント
「一還暦一コンクール60回の軌跡とこれからの建築の大阪」
7/9 CPD3単位(予定)

昭和29年に設立された大阪建築コンクールが、今年で60回を迎えました。それを記念したイベントを開催します。参加者には全受賞作品掲載の記念小冊子を差し上げます。

日時 7月9日(土) 13:30～19:00

会場 綿業会館本館7階大会場

大阪市中央区備後町2-5-8

開会の挨拶 13:30～13:45

第一部 13:45～14:45

基調講演「大阪建築コンクール60回の軌跡」
講師 松隈洋(京都工芸繊維大学教授)

第二部 14:55～16:55

パネルディスカッション

「これからの建築の大阪」

モデレーター/パネラー 倉方俊輔(建築史家)、竹原義二(建築家)、松隈 洋(建築史家)、原田哲夫(建築家)、大谷弘明(建築家)、田口雅一(構造家)、忽那裕樹(ランドスケープアーキテクト)、矢田朝士(建築家)

第三部 17:20～18:50

ドリンクパーティー(懇親会)

参加費 第一部+第二部

会員3,000円 会員外3,500円

第三部(懇親会)

2,000円(会員・会員外共通)

開会の挨拶 18:50～19:00

動静レポート

会長動静

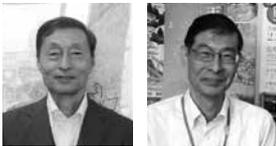
- 5/26 建築士会連合会正副会長会議
- 5/27 建築士会連合会理事会
- 5/30 事務所協会創立40周年祝賀会
- 6/4 ヘリテージ研修会候補地視察
- 6/8 香港工業総会来阪団視察同行
- 6/9 香港貿易発展局との交流会
- 6/14 基礎ぐい工事ガイドライン講習会
- 6/15 理事会・正副会長会議
日本建築協会総会懇親会
- 6/17 釜山建築士との懇談会
- 6/20 建築士会連合会正副会長会議
- 6/21 建築士会連合会定時総会
- 6/23 大阪市都市計画局長・整備局長訪問
- 6/24 大阪府住宅まちづくり部長訪問

運営委員会

本年度の府内43市町村首長訪問がスタート

岡本会長は今年度の府内市町村への訪問のスタートに当たり、6月23日に大阪市の川田都市計画局長と國松都市整備局長を、6月24日に府の堤住宅まちづくり部長を、副会長と共に訪問しました。今後、年内を目処に府内43市町村の首長等の幹部を本会の地元会員と訪問し、本会の社会貢献等の活動状況を報告するとともに、市町村との連携強化に向けた意見交換を行う予定です。

また今年度は、教育委員会文化財関係部局も訪問し、伝統建築物等を対象とした本会へリテージ活動への協力を依頼します。



大阪市
左：川田局長
右：國松局長



大阪府
右から、澤田建築指導室長、堤住宅まちづくり部長、岡本会長、田中副会長、濱田副会長

運営委員会

香港工業総会との交流

本年1月12日に本会との相互協力の覚書を交わした香港工業総会の第2グループ

(建築材料部会) アラン・ソー会長他20名の会員が、インテックス大阪において日本材料協会主催の「KENTEN2016」に合わせて来阪されました。

本会では、建築技術交流の一環として、市内マンション建設現場の視察を企画し、来阪団の方から、有意義な日本訪問になったと好評でした。

また、6月9日に香港貿易発展局主催の交流会が開催され、本会から岡本会長はじめ4名の役員が出席し、スーザンラム発展局日本主席代表の挨拶の後、建材等を扱う香港企業からプレゼンテーションがあり、今後の交流促進に向け親睦を図りました。

本会の国際分科会では、香港工業総会の展示会開催の10月に香港建築ツアーを計画しており、詳細が決まりましたお知らせしますのでご参加ください。



中央：アラン・ソー香港工業総会第2G会長
右：岡本会長 左：徳岡理事

事業委員会

「住宅省エネ技術設計者講習」が国交省補助事業に採択

今年度も昨年度に引き続き、国土交通省の補助事業である「大阪府住宅省エネルギー設計技術講習会」を本会が受託し開催することとなり、準備を進めています。国は2020年までに住宅をはじめすべての建築物を対象に、建築物省エネ基準への適合義務化を順次行う方針であり、建築確認と連動した「省エネ適合性判定制度」の導入も予定されています。

講習では木造戸建住宅を対象に、平成25年度改正の建築物省エネルギー基準に基づき、外皮計算や一次エネルギー消費量の計算過程を学んでいただき、演習を実際に行っていただきます。

特に、本会会員は本会が受講料を補助し、無料で受講していただく予定をしております。建築人8月号で詳細のご案内をしますので、お早めにお申しください。

研修委員会

本年度第1回目の建築士定期講習を実施

建築技術教育普及センター主催で本会が運営する、本年度第1回目の建築士定期講習を6月7日に実施し、275名の方が受講されました。

定期講習は、建築事務所に所属する建築士は3年ごとに受講することが法律で義務付けられております。

本会の定期講習の特徴は、ビデオを使用せず、行政担当官や民間の経験豊富な実務者が講師を担当いたします。

本年度は8回開催する予定ですが、例年好評につきご希望の日程の申し込みは満席のため受付ができないことがありますので、お早めにお申しください。

社会貢献委員会

大阪地域貢献活動事業助成に2事業が決定

本会が毎年実施しております、建築士と地域住民他が連携して進めるまちづくりなどに対する活動助成として、本年度の対象に2事業が決定しました。

1つは、阿倍野の木造町屋・長屋を調査し、調査したデータを分類、整理し、区役所や地域住民他と連携して案内マップ等を作成するものです。

もう1件は、柏原市片山町において普段は「ベンチ」として、有事には「かまど」として使用できる「防災かまどベンチ」の設置支援を通じて、市民の防災意識の向上を働きかけるものです。助成額は何れも10万円の予定です。

建築情報委員会

本会ホームページの対象者別表示項目等のリニューアル

本会ホームページのトップページにおける一般向け、建築士向け、会員向けの各項目の関連活動内容の一覧表示を、活動分野ごとに分ける等の活動状況が容易に検索できるようにリニューアルしました。特に、耐震・インスペクション・ヘリテージなど一般の方を対象とした社会貢献活動の紹介を充実させ、その内容をわかりやすく伝えられるように改善しましたのでご活用下さい。

楨文彦展・講演会事業で得たこと

展覧会 期間：平成28年4月20日(水)～5月29日(日) 会場：NU 茶屋町
講演会 開催日：平成28年5月13日(金) 会場：大阪市中央公会堂

岡崎 雅（楨文彦展実行委員会委員長）



4月20日から5月29日の40日間NU茶屋町で開催した「楨文彦展」の入場者数は5,503名、会期中の「楨文彦講演会」では、中央公会堂が満席となる1,130名の多くの方に参加していただきました。両事業に支援いただいた楨総合計画事務所はじめ、後援団体、協力・協賛の各社の皆様に心よりお礼申し上げます。実行委員会では、実施に至るまで喧々諤々の意見交換を行い、より良い企画内容とするために時間と労力を惜しまず費やしていただいた委員の皆様には、大変なご苦勞をお掛けいたしました。今回の事業では、数字上の成果もさることながら、事業を進める過程で得たものが多くありました。1つは、NU茶屋町という繁華街の商業施設で展覧会を開催することができ、建築設計の大切さやすばらしさを、建築士はもとより、一般府民や学生等に向けて

広く情報発信できたことです。昨年、本会では「建築からソーシャルデザインへ～多様な人材と絆で社会に貢献」というビジョンを確立しました。本会の活動は、建築単体にとどまらず、社会貢献活動を通じて、府民の安心安全が確保され文化的で快適な社会の構築を目指し、積極的に行動を起こすという決意をこのキーワードに込めました。今回の事業で、楨先生の作品や理想を社会に向けて発信できた事は実に意義深いと思います。一般の方々には建築への理解をより深めていただき、建築関係者や学生には楨先生の設計コンセプトやプロセス等を目にして刺激を受けた方も多いと思います。そして何より公益団体としての「大阪府建築士会」の存在を社会にアピールできたことも形に表れない大きな収穫であったと確信しております。

2つは、本会の一大イベントとして、役員・委員が一体感をもって取り組めたことです。普段は、委員会や地域等でそれぞれの目的で事業活動されている皆さんも、通常の枠を超えて一丸となってご協力いただきました。本会はまさに多様な人材と絆で結ばれている事を今更ながら実感いたしました。今回のイベントが、将来の活動方針にも良い影響を及ぼし、大阪府建築士会が更に盛り上がることを期待しています。



2階席まで満席の講演会風景

平成28年度定時総会及び関連行事の報告

開催日：平成28年5月25日(水)
会場：ホテル大阪ベイタワー

平成28年度定時総会は、総正会員数2,606名に対して1/3以上となる949名（うち委任状827名）の出席で定款第17条に照らして成立し、第1号～3号議案を審議し承認されました。



所信を述べる
岡本会長

○第1号議案（27年度事業報告）

本会が27年度実施した、公益目的事業、収益事業、その他事業について、運営・研修・事業・建築表彰・建築情報・社会貢献の6つの常設委員会別に活動内容を報告し、承認されました。

○第2号議案（27年度財務諸表等）

貸借対照表、正味財産増減計算書等の財

務諸表に照らして、収支項目の推移について説明を行いました。

平成27年度決算は、収入174,508,813円、支出173,866,364円で642,449円の黒字となりました。

支出の内1700万円は、これまで積み立て不足が懸案となっていた事務局職員の退職引当額であり、28年度予算に600万円を計上することで、28年度に必要とされる退職引当総額4600万円を満足させる予定です。

27年度決算により、本会の正味財産は25,494,414円となり、前年度より3,452,111円の増額になりました。

さらに、公益法人法に定められた公益目的事業の3区分の各収支が全て赤字であり、公益目的事業の支出計が全支出計の1/2以上の規定を満たしていることを報告して承認されました。

○第3号議案（28年度役員選任）

2年間の任期が満了した役員に代わる「役員推薦委員会」から推薦された理事20名、監事1名が承認されました。これにより、28年度は理事44名、監事2名の役員構成となりました。

■式典・表彰式

大阪府の堤勇二住宅まちづくり部長、大阪市の梶本武史都市計画局理事にご来賓挨拶を賜りました。

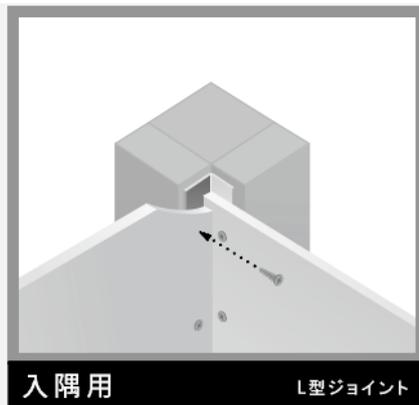
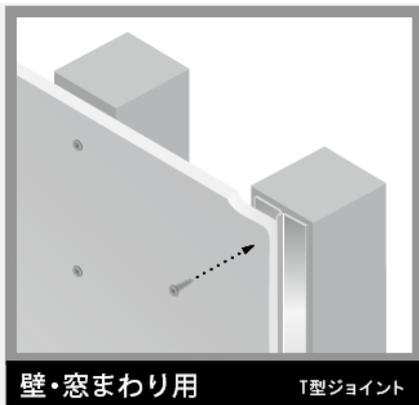
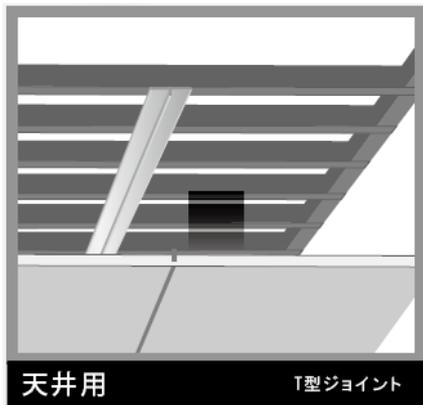
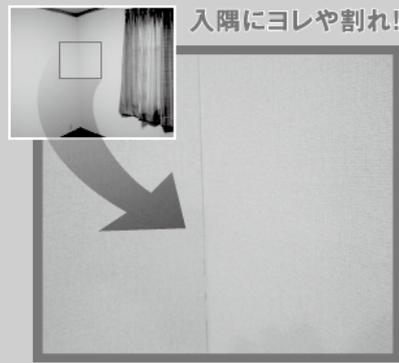
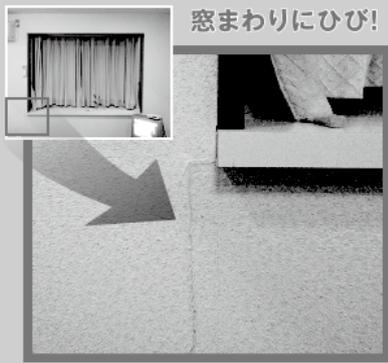
名誉会員称号、永年会員表彰をはじめ、第60回大阪建築コンクール及び、第8回建築人賞の表彰式を執り行いました。

■記念講演会

西沢立衛氏をお迎えして「環境と建築について」というテーマで、建築学会賞を受賞された豊島美術館など、氏の斬新な作品のコンセプト等を語っていただきました。

内装クロスひび割れクレームを受けたことはありますか？

匠の巧 ■ 奥地建産株式会社



「クロスひび割れ」あきらめるその前に

文 測側 晋

内装クロス割れクレームでお困りでは

内装クロスひび割れクレームを受けたことのある、工事監督、アフター担当者の方はことのほか多いのでは無いだろうか。このクロス割れは、常に住宅などの内装工事のクレームランキングでは上位に入り続けているものだが、美観の問題だけで、建物の性能上には何ら影響を与えないことから、あまり対策は練られず、仕方が無いと、あきらめられてきた事が多かった事と思う。しかし、どんなに小さくてもクレームはクレームであり、呼ばれば対応せずにはおれず、ましてやそれがために施工に対する信用に傷がつくことも有り得るなど、頭の痛い話で、何とかならない物かと、その対応策を探して来た方は多かったのではないか。これら、どうにかしたいが、どうにもならない、クロス割れに、効果的な予防策があるとしたらどうだろう。是非知りたいと思う工務店や施工関係者の方は多いはずだ。かく言う筆者も、クロス割れには苦い経験がある。住宅ではなく店舗だったので、閉店後の遅い時間に職人さんを連れて何度も通った虚しさを今、思い返すことが出来る。もしクロス割れに効果的な方法があるならば是非とも知りたかった。

内装クロス割れクレームは予防出来る

実は、そんな、当時の私を含め、クロス割れで悩む多くの方々のために二〇年以上の安心実績を誇る一つの提案がある。それが、今回取材におとずれた奥地建産株式

会社が開発した「せつこうボードジョイント」だ。この「せつこうボードジョイント」がどんな商品化か説明する前に、何故、クロスひび割れが発生するのかを、奥地建産(株)が調査、研究して得た結論から見てみたい。クロスひび割れの原因は、クロスの下地側に主因がある。クロス補修に立ち会ってみると、必ずといってよいほどせつこうボードの目地部でひび割れが発生している。この事は、ハウスメーカーや工務店でアフターメンテナンスを担当している方にヒアリングをしてみても同じ証言が得られる。また、実大壁を製作し、意図的にせつこうボードの目地ズレを誘発させた際も実態と同様のクロスひび割れが発生した事から、目地ズレがひび割れを引き起こしている事が伺える。発生順序はこうである。

1. まず、木下地が木の性質から、気温・湿度の変化に伴い収縮・曲がり等が発生し、挙動する。特に乾燥に伴う収縮・変形は一般によく知られている通りである。2. 木下地に留め付けられたせつこうボードが、木の収縮・変形の影響を受けて挙動させられる。3. せつこうボードの挙動が目地部分でズレとなり、クロスによれ・割れが引き起こされる。また、風圧や地震動を受けての建物の揺れに於いてもせつこうボードの目地ズレが誘発されることがあるが、いずれにしても最終的にせつこうボードの目地部が挙動させられ、ひび割れが引き起こされる。クロス割れの原理を理解すれば解決策につなげることができる。筆者は、ボードを留

めるねじの数を増やして、より強固に固定すればいいのではと考えた。確かにそれも効果があるというのだが、留めるねじの数を増やすだけでは、クロス割れをまだ完全に防ぎきえることは出来ないという。奥地建産(株)が試行錯誤の末に導き出したのが、先の「せつこうボードジョイント」というわけだ。「せつこうボードジョイント」は鋼製のL字型、T字型の長材でせつこうボードの下地材としてボードの目地に使用する。表面のせつこうボードと下地の木材等を「せつこうボードジョイント」とねじを介して固定することでせつこうボードジョイント・下地を一体化し強固に固定し、クロス割れのリスクを劇的に低減させる。

製品を影で支えるもの

仕組みを聞けば、なんだそんなことかと思われ方もおられるかもしれない。しかし、日本のプレハブ・ハウスメーカーの、なんと約七〇%がこの「せつこうボードジョイント」を既に採用済みであるということが、この商品の機能性と信頼性の高さを物語っている。加えて、奥地建産(株)は採用工務店には施工の感想、改善要望のヒアリングを実施し、展示場に足を運んで一年后・二年後の経年観察も欠かさず行うなど継続的な努力を積み重ねている。実はこの奥地建産(株)は、住宅メーカー業界において鋼製下地部材を日本で初めて普及させ、業界に革命を起こした。以来、二五年以上にわたり、大手ハウスメーカーとの共同開発と、自社開発に情熱を注ぎ続けてきた。その真摯な物創りの姿勢が、顧客に大きなメリットを与え続けていると感ぜられる。この「せつこうボードジョイント」は奥地建産が独自に開発した完全なオリジナル商品で、

現在、特許申請中とのことだが、これを模倣するところも出てきているとのことだ。しかし、模倣出来るのは、比較的つくりやすい、L字型までで、技術力が求められるT字型は模倣されていないと聞く。とはいえ、こうした事も裏を返せば奥地建産(株)が独自に開発したこの商品がいかに優れているか、いかにユーザーに利益を与えているかの現われでしかないとも感ぜられ、オリジナルにこそ敬意を表したいとも感ぜられる。これらのことは又、別のところからも見て取れる。「せつこうボードジョイント」を取り扱って販売している吉野石膏(株)は、その取扱理由を売上・利益の追求ではなく「お客様(工務店)へのお役立ち」という点に重点を置いている。「せつこうボード」自体はたいへん良い製品であるし、それを使ってお客様(工務店)は良い施工を行って良い建物を造ることが出来る。しかし引渡し後にクロス割れが発生してしまうと建物の評価を損じてしまう事になりかねない。「せつこうボードジョイント」を提案してそれを防ぐ事が出来れば、お客様に価値を提供しお役立ち出来た事になる。実際、今まで「せつこうボードジョイント」を採用いただいた工務店からは、「T字型を使って階段部のひび割れが減った」「勾配型を使って仕上がりが良くなった」と喜びの声をいただいている。

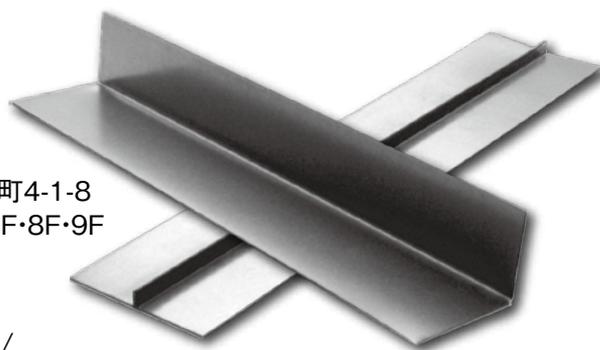
皆が共に成長してゆくために

現在、自社の優良性の証明としてISOの取得に取り組むのは常識化している部分があると感じる。それぞれの企業は自らの企業の特徴にあったISO(マネジメントシステム)の取得に取り組む。奥地建産(株)も例に漏れず、いくつかのISOを取得している。その中で、環境マネジメントや品質

マネジメントは、製造、開発を行う企業であれば、ある意味、全てが取り組むべきものだとも感ぜられるが、注目すべきはBS25999認証、ISO22301認証の事業継続マネジメントを取得しているという点である。あまり聞きなれないこのマネジメントシステムとはいったい何かと言えば、近年、各所で続発する未曾有の災害においての製品の供給リスクを可能な限り低減する取り組みが出来ているかどうかで、この取得は奥地建産(株)の取り組みが評価されているものである。先の東日本での大震災の際には、多くの企業の製造拠点が大きな打撃を受け、供給がストップするなどして、復興に際しての大きなブレーキとなっていたことは記憶に新しい。奥地建産(株)では、優れた品質と性能の商品を作るのはメーカーとして当然の事としながら、そこから更に二歩踏み出し、その優れた商品をどんな状況においても供給し続けることがメーカーとしての責務と考え、三重工場と福島工場での二極化によって、まさかの災害においても供給を継続し復興を遅らせることの無いようにと備えている。これらの事から見えてくるのは、単に自社の利益ということに留まらず、ユーザーの最大限の利益と共に皆がともに善く成長してゆければという、企業姿勢ではないかと感ぜられた。今回取材をおこなった「せつこうボードジョイント」に話を戻せば、先にも述べたように日本のプレハブ・ハウスメーカーの約七〇%が既に採用済みだと言うことから、その効果の程は実証されていると言えるだろう。しかし今だこの製品の存在を知らず、クレームで困っておられる方々が大量おられるということ。また、この製品を試された方のもっと早く知れたかったとの声があることを聞くにつけ、

この製品がより多くの方々を知るところとなればとも感ぜられた。そして小さなクレームに悩まされずに、より高品質な住宅などの空間造りに取り組めたなら、いち企業の利益に留まらず、その製品を使用する側、そして、そこから得られる高品質な空間に住まわれる方と、それぞれの利益となつてゆく事を思うと、何かワクワクとする思いとなると共に、そんな互いが高めあえる関係が広がってゆけばと感ぜられた今回の取材であった。

OKUJI 奥地建産株式会社



お問い合わせ

大阪事務所

〒541-0054 大阪市中央区南本町4-1-8

アルテビル南本町7F・8F・9F

TEL 06-6243-3700

FAX 06-6243-3710

HP <http://www.okuji.co.jp/>

第8回 建築人賞 発表

主催：公益社団法人大阪府建築士会



審査委員長 古谷誠章

1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒
1980年 早稲田大学大学院修了
1986～1987年 文化庁芸術家在外研修員として
マリオ・ボッタ事務所在籍
1994年～ 八木佐千子とスタジオオナスカ(現NASCA)共同設立
1994年～ 早稲田大学理工学部助教授
1997年～ 早稲田大学教授



建築人賞記念盾「未来へ！」
ガラスアーティスト 三浦啓子作

審査総評

建築人賞審査委員長 古谷誠章

建築人賞の審査をお引き受けして三年目となりました。昨年より、作品を掲載された応募者によるプレゼンテーションによって一次審査を行っています。会場には応募作品のパネルも展示していただき、来場された皆さんが相互に意見を交換したり、交流を深める機会となっています。今年の会場を一巡してすぐに気づいたのが、お世辞抜きで作品の質が一段とグレードアップしていることでした。いわゆるアトリエからも大手の組織からも、幅広く充実した作品が数多く勢揃いしていました。

短時間でのプレゼンテーションと質疑応答では十分言葉尽くせなかつたと思われませんが、どうぞご容赦ください。それでも皆さんが綿密に準備をしてくださったおかげで、建築人誌上の限られたページからはつかみ取れない作品に込められた設計の意図を伺うことができました。パネルも昨年以上に工夫の凝らされたものを感じました。昨年同様それからの審査が大変で、ひとり審査委員長の辛さ、何しろ独断と偏見で選ぶわけですから、まるでたたりたりと脂汗を流す筑波山中の四六のガマになった心境です。とくに一般建築部門の候補作に

は昨年をはるかに上回る力作揃いで、選考は大いに難渋しました。一方の住宅部門でも中堅、ベテランともに綿密に考えられた佳作が多く、現地審査の対象を絞るのにさらに苦戦しました。今年も、建築としての質の高さだけでなく、大阪・関西の文化的土壌にいかにか根差しているかについて想像を巡らせて、最終的に一般建築で五件、住宅四件を実地に見てまわることとしました。

三月三〇日～三一日、および四月六日に、大阪市、西宮市、豊中市、奈良市、狭山市にある計九作品を訪れました。幸い通路の支障もなく、ほぼ予定通りに見て回ることができました。実際に訪れて周囲の環境や、立地する土地柄などを見ると、誌面ではわからないその作品の成立した背景をつぶさに見て取ることが出来ます。単体の建築の写真だけでは気づくことのできない家並みや街並みに対する姿勢などを読み取ることが出来るのです。昨年の講評でも施主と建築家がお互いをじっくり育て合うような関西の気質について触れましたが、敷地を取り巻くこうした風土自体もまた、施主や建築家を育てているように感じました。来年もどうぞよろしく願います。

●目的

公益社団法人大阪府建築士会では会報誌「建築人」を毎月発行しており、二〇一六年四月には第六二二号を数えました。本会会員である建築士にとって重要な情報提供を行うとともに、作品発表の機会を設け、建築技術の普及や建築士の相互研鑽に寄与することを目指しています。

「建築人賞」は、「建築人」のGALLERY頁に掲載された作品の中から機能性、社会性、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰し、建築技術の進展、建築文化の向上に資するとともに、「建築人」のプレゼンスをさらに高めていくことを意図して創設された賞です。

●審査経過

審査は、公平性を重視するため、関西以外で活躍する建築関係者、学識経験者等をお願いしています。第六回からは早稲田大学教授古谷誠章氏が審査委員長としてお迎えしました。

今回は、二〇一五年に掲載された作品四〇点が対象となりましたが、今回も前回同様、公開一次審査を行いました。一次審査は、二月二七日に開催され、計三六点の作品について設計者のプレゼンテーション、審査員による質疑等を行い、その場で九点が審査を通過しました。その後三月三〇日、三一日、四月六日の三日間、現地審査を行い、最終的に、建築人賞二点、建築人賞奨励賞三点、佳作四点が選出されました。

入賞作品は、いずれもその機能性、デザイン性、社会性などが高く評価されたものですが、これらを表彰し公表することによって、社会に対して建築の魅力や価値を発信し、建築文化の醸成に寄与できるものと考えています。

建築情報委員会委員長 米井 寛



建築人2015年1月号掲載

建築主／公益財団法人
竹中大工道具館
設計／(株)竹中工務店
施工／(株)竹中工務店

建築位置／兵庫県神戸市
竣工年月／2014年4月
用途／博物館
構造・規模／S造・RC造
地下2階 地上1階
敷地面積／2,744.30㎡
建築面積／538.97㎡
延床面積／1,884.05㎡
写真／古川泰造



【選評】
今ここを新神戸駅に至近となり
ましたが、それ以前からここ
にあったという旧竹中工務店社
長邸跡に建つこの施設は、六甲
の麓の斜面地を生かしてひっそ
りと佇んでいます。外からは内
部の大きな空間の存在すら感じ
させない見事な造形とプロポー
ションの感覚に圧倒されました。
端正な瓦屋根とその絶妙な
むくりのなせる技ですね。この
賞にこのような力のこもった大
作の応募があったことを何より
もまず大変うれしく思います。
内部の木格子天井の、骨太であ
りながら全体を優美に感じさせ
る巧みな感覚も、一目見て得心
がきました。地下に彫り込ま
れた常設展示室の空間も、吹き
抜けに対する北側からの採光
と、葉表の明るい緑が反射して
入り込む効果が相まって、閉塞
感のない極めて居心地のよい空
間となっています。



建築人2015年3月号掲載

設計／(有)岩田章吾
建築設計事務所
施工／(株)和田建設

建築位置／奈良県奈良市
竣工年月／2014年11月
用途／住宅
構造・規模／W造 2階建
敷地面積／458.37㎡
建築面積／155.16㎡
延床面積／206.62㎡
写真／松村芳治



【選評】
これこそ実際に現地へ赴いて、
大和棟の形態を踏襲することの
意味を実感させられた作品です。
緩やかな傾斜を持つ敷地前面の
道路を少し上って見下ろすと、
この棟の向きと形がこの土地の
古くからの家並みの連続にとっ
ていかに重要に働いているかが
わかります。この家単独ではな
く、この家に連なる住宅地全体
に気品のある佇まいをもたら
しているところが唸らされました。
また、外からはさほど大き
く感じない穏やかなこの棟の中
に、どこか大陸的と感じさせる
ほどにゆったりとした大らかな
空間が孕まれていたのも圧巻で、
大変驚かされました。合掌頂部
のカープした繋ぎ材も雰囲気
があり、巧みに天井を照らし出す
間接光と併せて、大スパン大開
口のスケールの大きい屋内空間
に柔らかなみを与えています。

建築人賞奨励賞 西光寺



建築人2015年5月号掲載

建築主／宗教法人西光寺
設計／(株)コンパス建築工房
施工／日本建設(株)

建築位置／大阪市阿倍野区
竣工年月／2015年3月
用途／寺院・庫裏
構造・規模／RC造 2階建
敷地面積／384.74㎡
建築面積／292.43㎡
延床面積／476.86㎡
写真／岡田大次郎

【選評】
これぞ大阪の寺だと感じさせる、痛快な寺院建築です。阿倍野の繁華街にあって、異次元のように凛とした空気を感じさせる参道空間が印象的で、コンクリート打放しの力強く素材感も説得力があります。随所に施された四〇〇年の歴史を物語る古物も、この建築に深い味わいと緊張感を与えています。外からは存在を感じさせない庫裏のつくりも巧みでした。

建築人賞奨励賞 ENDO 堺筋ビル



建築人2015年7月号掲載

建築主／(株)遠藤照明
設計／(株)日建設(基本設計・意図伝達)・大成建設(株)
施工／大成建設(株)

建築位置／大阪市中央区
竣工年月／2015年3月
用途／事務所
構造・規模／S造
敷地面積／595.32㎡
建築面積／497.15㎡
延床面積／4,533.63㎡
写真／岡本公二

【選評】
照明器具メーカーの本社であること以上に、通りの光環境創造への確固たる意思を感じさせる気概のある建築です。誌上では夜景のみが表現されていましたが、黄昏時の内外の光の反転する時間は、刻々と移り変わる表情がとても印象的でした。外装ルーバーの僅かな奥行きに仕込まれた照明やエアフローのメカニズムにも、並々ならぬ情熱を感じました。

建築人賞奨励賞 大野台の家



建築人2015年12月号掲載

設計／横関正人＋横関万貴子
／(有)NEO GEO
施工／(株)アール・ワン

建築位置／大阪府大阪狭山市
竣工年月／2015年7月
用途／専用住宅
構造・規模／W造 平屋建
敷地面積／344.74㎡
建築面積／125.60㎡
延床面積／116.34㎡
写真／絹巻 豊

【選評】
狭山ニュータウンの一戸建て平屋住宅のリノベーションです。周囲に馴染んだこの家の表情を変えずに、内部を爽やかに刷新した手腕が見事です。特に三和土を施した玄関から小上がりを経て、キッチンを中心とした家族の中心スペースに至る空間の光の変化が心地よく、一見何気なく見える白壁にも質感の変化があり、とても上品な心地よさがありました。

建築人賞佳作
チュチュアンナグループ本社ビル



【選評】
とにかくここに働く社員の方々が、楽しそうにはつらつとしていたのが印象に残ります。オフィスビルとしては一見不思議な不定型なフロアの形を取っていますが、この変形した末広がりの形が、ともすると単調になりがちな執務空間にメリハリを生んでいる、社員の働き心地やコミュニケーションの促進に貢献していると感じました。

建築主／(株)チュチュアンナ
設計／(株)安井建築設計事務所
施工／(株)鴻池組
建築位置／大阪市中央区
竣工年月／2015年4月
用途／事務所
構造・規模／S造
地上8階 塔屋1階
敷地面積／1,574.11㎡
建築面積／1,071.43㎡
延床面積／5,617.44㎡
写真／津田裕之

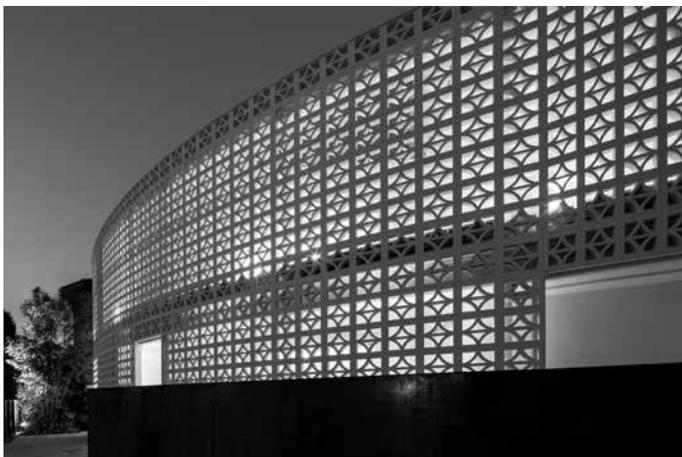
建築人賞佳作 認定こども園
せんりひじり幼稚園ひじりにじいろ保育園



【選評】
長年にわたる施設計画の一環として、園舎の耐震化に伴う増築が行われたので、施工の信頼に応える建築家の二人三脚の仕事ぶりを見たように思います。園児が回遊できるデッキは、それだけでも魅力的な空間であり、また結果として残された園庭の緑や畑、斜面などが、こども園の生活にのびのびとした雰囲気をもたらしています。

建築主／学校法人ひじり学園
設計／(有)アバクス・アーキテツ
施工／松井建設(株)
建築位置／大阪府豊中市
竣工年月／2015年3月
用途／認定こども園
構造・規模／S造 地上3階
敷地面積／6,036.58㎡
建築面積／791.08㎡
延床面積／401.82㎡
写真／笹倉洋平

建築人賞佳作 LIGHT SCREEN



【選評】
実際に訪れて家の前の斜面地の変形三叉路に建ってみると、この家のカーブする美しい花ブロックのスクリーンがとても必然的に思えます。特に坂道の下方から見上げる時、隣近所とはデザインモチーフは対比的でありながらも、不思議に周囲の空間の流れに溶けこんでいるように見えて、このデザインの強い説得力を感じました。

設計／(株)マニエラ建築設計事務所
施工／(株)梅田コーポレーション
建築位置／西宮市殿山町
竣工年月／2011年12月
用途／専用住居
構造設計／玉木建築設計事務所
構造・規模／RC造
敷地面積／203.62㎡
建築面積／77.46㎡
延床面積／158.60㎡
写真／松村芳治

建築人賞佳作
Rich Communication House



【選評】
この家とはにかく楽しく、幸福感に満ちた住宅でした。既存住宅のリノベーションですが、インテリアはウィットに富んだ改修がなされました。よほどこの可能性を見抜いたものだと思えます。随所に使われたラウンドコーナーも効いていて、吹き抜けを介した内部空間がやさしくつながっています。

設計／(株)HTA デザイン事務所
施工／西友建設(株)
建築位置／兵庫県西宮市
竣工年月／2015年5月
用途／専用住居
敷地面積／239.02㎡
建築面積／143.57㎡
延床面積／282.37㎡
写真／母倉知樹

設計・監理：大阪市都市整備局公共建築部企画設計課、日建設計
 施工(建築)：浅沼・中林特定建設工事共同企業体



所在地：大阪市城東区	地下1階、地上4階
用途：区役所、区民センター (区民ホール)、図書館、 老人福祉センター	敷地面積：6,534.20㎡ 建築面積：5,367.95㎡ 延床面積：15,820.78㎡
竣工：2016.03	写真：エスエス大阪
構造規模：SRC・RC・S造	近代建築社

本施設は区役所、保健福祉センター、区民センター、図書館、老人福祉センターから構成される。区役所に見えない親しみやすさ、800人のホールがあるように見えない外観など、「らしくない」建築をめざした。縦動線は隣接する蒲生公園に面した建物中央に集約。さらに公園からも各階にアクセス可能な屋外階段、テラスを設け、お年寄りから小さな子供の偶発的な出会いと交流の場とするとともに目的以外の施設利用を促す計画とした。デザインテーマは「環境の見える化」と城東らしさ。「音楽のまち」をテーマとする区の施設らしく音符や鍵盤をデザインモチーフに、区の花「モクレン」「コスモス」のイメージを色彩計画にとり入れた。





主に知的障害をもつ子どもの入所施設である。老朽化による建替えを機に、全体を6つのユニットに分け、6～8名の暮らしを実現した。1階に事務管理、交流ホールを設け、2・3階を子どもたちの生活空間としている。ユニットにはそれぞれ食堂・居間、トイレ、洗面を設け、浴室は複数での入浴と個室を選択できるよう計画した。個室を中心に、2人部屋、4人部屋があり入所児童の年齢や状況に応じて使い分けられる。また、ユニットの間にスタッフルームを設けて職員の情報共有と協力体制を確保している。安全で居心地のよい空間を作るため、部屋の配置、扉や窓の素材・形状に配慮し、自然光と風を取り入れ、木のぬくもりを感じるしつらえを心がけた。

建築主：社会福祉法人
月の輪学院
所在地：大阪府寝屋川市
用途：児童福祉施設等
竣工：2016.03
構造規模：鉄骨造3階建
敷地面積：1169.07㎡
建築面積：546.07㎡
延床面積：1380.32㎡
写真：松村芳治

東京都二三区の中で最多となる約九〇万人が暮らす世田谷区では、ここ数年來、区庁舎の建替えをめぐる議論が続いている。竣工から半世紀が経過し、老朽化と耐震性への不安から、全面建替えを求める声が高まっているからだ。しかし、隣接する区民会館と共に前川國男が手がけ、広場を中心とする郊外型公共施設のあり方を先駆的に示した好例として評価も高い。このため、日本建築学会や日本建築家協会などから保存要望書が相継いで出されてきた。そこでここでは、この建物に込められたものとは何かについて振り返っておきたい。

この区民会館と区庁舎は、一九五七年に行われた日建設計、佐藤武夫、山下寿郎、前川國男の四者による区庁舎として初の指名設計競技によって前川案が選ばれて建設された。前川の下で設計を担当した鬼頭梓の記した次の文章からは、東京が直面していた都市の現実が浮かび上がってくる。

「東京が巨大な村落であるといわれているように、それは一つの都会としての有機的な内容を失ってしまった。都心が、密集する高層ビルと自動車の氾濫によって、その機能が麻痺し始めている時に、その郊外の住宅地は、平面的に無限に拡がりながら、小さな庭と小さな木造住宅によって埋めつくされようとしている。(中略)その中で人々は狭い殻に閉じこもって、孤独の生活を細々と守っている。このように無数の矛盾をはらみながら、しかも今の東京には未だ健康な幸福な都会生活へのイメージすら存在していない。そこには、そのようなイメージを育てるような共通の意識、連帯感がそもそも存在していない(中略)このよ

人々の幸福に連なる筈の公共施設の設計を委嘱されたとき、私たちは強い意欲をいだくと同時に、何を手掛りとしてこの設計を進めていったらよいかに苦しんだ。」(鬼頭梓「区民会館の設計で考えたこと」『建築文化』一九五八年六月号)

この文章にあるように、高度経済成長期に突入した当時の東京では、人口集中が急速に進み、通勤ラッシュや交通渋滞といった軋みが始めていた。そんな中、身近

記憶の建築

松隈 洋

世田谷区民会館・区庁舎 1959・60年
都市のコアに託された情景



ある日の広場の情景

頭は、竣工後、この建物で何を目指したのかについて、次のように記したのである。

「親しみやすい空間を創りたい。ちょうど四年前、はじめてこの設計に手をつけ

な場所に心のよりどころとなる公共的な空間が切望されたのだろう。敷地は松陰神社や豪徳寺に程近い閑静な住宅地の一角にある。ここに地域の核となる集会室や展示室、結婚式場などからなる公会堂と、一三〇〇人を収容する本格的な舞台を持つ劇場、区庁舎が計画された。また、実は、敷地の大半はある一人の地主からの寄贈であり、建設費も地元民の寄付金を元に地道な積み立てによって賄われたという。だからこそ、こうした時代背景と人々の期待を前に、鬼

だった。(中略)市民の生活の場に連なる空間を主体として考え、その空間を創り出すものとして区民会館と区庁舎が置かれたといってもよいと思う。道路がひろがり、ふくれあがり、のびていって広場となり、また道路へと連なっていく。一つの建物とピロティによってつくられ、樗と灌木に囲まれ、ベンチのおかれたその広場を、人々は通り抜け、吹き溜りのようにあちこちに溜り、子供は遊びまわる。区役所や区民会館に来る人たちと、直接関係のないこんな

ことが、いかにも大切なことにおもえてくるのである。」(鬼頭梓「配置計画のことなど」『建築文化』一九六二年五月号)

こうして、区の樹木である樗の植えられた前面道路側の前庭から、二階建ての公民館の下に設けられたピロティをくぐると、折板構造のコンクリート開放しの荒々しい表情の外壁を背景に中庭的な広場がひろがる独特な外部空間の構成が生み出された。また、公民館には水平に伸びる大きな庇が設けられ、建物の周囲には区庁舎も含めてバルコニーや外部階段も廻らされて、回遊性のある公共空間が創り出されている。さらに、当時の職人たちの手仕事の跡を如実に映し出すコンクリートで空間のすべてを造ることによって、骨格の逞しさと素朴な表情を持つ建築が目指されたのである。

そして、この建物には、前川が一九五一年に丹下健三や吉阪隆正らと参加して師のル・コルビュジェとの再会を果たした、ロンドンで開催された第八回近代建築国際会議(CIAM)の「都市のコア」というテーマも盛り込まれていた。すなわち、合理的で機能的な近代建築の追求だけでは居心地の良い都市は実現できず、そこに核となる広場的な公共空間を組み込むことが必要であるという視点を前川は日本へ持ち帰り、自ら実践しようとしたのである。

時は流れ、心のよりどころとなる親しみやすい空間を切望した人々とそれに応えようと努力した設計者の思いは忘れ去られてしまった。それでも、ここからは公共性とは何かに応える質が今も発信されている。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士(工学)。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

先月の篠山のまちづくりに引き続き、今月は丹波市の佐治地区での取り組みを紹介します。10年に及ぶ着実な活動を、関西大学佐治スタジオの植地惇さんにご紹介いただきました。当初の関西大学の学生活動を主体とした取り組みが、地域に浸透していく様子がよく理解できます。

「関わり続ける」ことから生まれる地域との協働によるまちづくりの実践

植地 惇

関西大学佐治スタジオ 室長 1990年三重県生まれ。関西大学建築学科入学当時から、同大学が兵庫県丹波市青垣町に構える関西大学佐治スタジオの活動に積極的に参加。2015年に関西大学博士課程前期修了。同年、関西大学佐治スタジオの研究員となり、2016年より現職。現在は関西大学と佐治を行き来しつつ、大学生や地域の方々と協働し、丹波市内各地で様々な活動に取り組んでいる。

農山村集落における地域再生

我々が活動の拠点にしている関西大学佐治スタジオは兵庫県の中東部に位置する丹波市青垣町佐治の町にあります。青垣町は、周囲を山々に囲まれた、人口約六千二百人の町で、その中心部に佐治の町は位置しています。江戸時代は京都や大阪と山陰地方を結ぶ宿場町として隆盛を極め、現在も街道に沿って妻入りの町家が多く立ち並ぶ町並みは美しく、当時の面影を色濃く残しています。

しかし、人口減少や空き家の増加に伴い、美しい町並みの喪失や山、田畑の荒廃、交流機会の減少といった様々な課題を抱えています。そのような課題に対して、十年に渡り、関西大学、丹波市、関西大学建築環境デザイン研究室（以下、研究室）、関西大学佐治スタジオ（以下、佐治スタジオ）、空き家活用サークル「佐治倶楽部」、地域住民が関わり続ける定住のカタチを実践する中で、どのように農山村集落の地域再生に取り組んで来たのかを紹介したいと思います。

「関わり続ける定住のカタチ」

平成十八年に佐治を舞台に開催された日本建築学会近畿支部設計競技「シナリオ丹波」において、当時の研究室に所属する学生グループの提案が丹波市長賞を受賞したことがきっかけとなり我々の活動が動き出しました。

まずは佐治に滞在し活動する拠点を設けるため、平成十九年七月に佐治の町内の街道に面した空き家を借り、関西大学佐治スタジオを開設しました。そして同月、関西大学と丹波市がまちづくりに関する包括的な連携協定を締結し、大学と行政、地域との協働による地域再生に向

けた取り組みを実践する体制が整いました。さらに、同年十月には文部科学省平成十九年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G.P.）（平成十九（二十一年度））に採択され「関わり続ける定住のカタチ」と「二十一世紀型の故郷づくり」をテーマに農山村集落の地域再生へ向けた取り組みが本格的に始まりました。本取り組みでは「関西大学佐治スタジオ」と同地区にある「本町の家」の二軒の空き家の改修事業や様々な交流事業を展開させました。

そして、「関わり続ける定住のカタチ」とは、大学が関わり続けることで、毎年沢山の学生が途切れることなく地域に関わり続けることができるということではないですが、丹波市に関わる人口「交流人口」が増えていき、過疎化に悩む地域に新しい「定住のカタチ」を生み出すと考えています。

また、学生は丹波のような豊かな山河に囲まれた故郷を持っていない人が多くいます。そんな学生達にとって、丹波に関わり続けることで、「新しい故郷」「第二の故郷」を持つことができると考えました。

空き家リノベーションを通じて地域環境をデザインする

現代G.P.の事業として「空き家リノベーションプログラム」に取り組んでいます。このプログラムでは、地元大工の指導支援を受けて大学生が主体的に、空き家改修に取り組みました。空き家リノベーションにおいて、私たちが重視している改修手法を紹介します。

・「作りながら考える」

設計図で考えるのではなく、職人や建築の専門家、地域住民と共に現場で考え、議論を積み重ねながら作っていきます。

・「小さく、簡単な改修手法」

地元の木材を使い、地域の方々が真似できる改修事例を目指します。

・「豊富な森林資源を活かす」

森林資源の豊富な地域特性を活かし、地元産材を用いた改修手法を実践します。

・「現場を常に地域に対して開く」

地域の方々が現場に入り見学や意見交換が出来るだけでなく、定期的にワークショップや見学会などを企画し地域と交流しつつ改修作業を進めていきます。

このように一軒の空き家を改修することだけを目的とせず、空き家改修のプロセスに多様な主体が参加し協働する仕組み作りやデザインが重要だと考えています。多様な主体と協働する事で地域の中で空き家改修やデザインに対する理解を得つつあります。

例えば、本町の家では、襖を修繕する際に、地元の表具師と学生が協働して改修に関わりました。

学生にご指導頂いた表具師・太田檜雲堂の太田嘉久氏は「私は経験から、安定したデザインや定番の形を考えます。しかし、学生は、伝統工法を柔軟に解釈し提案するので、今までと違う目線を手に入れることができます。また、改修してくれた物が実際に評価されることで、自分の仕事を改めて誇りに感じるようになりました。」と語る。

また研究室に所属する学生の竹谷龍馬氏は「実際に改修の経験を積むことで、大学の課題に取り組み際に漠然と提案を考えるのではなく、自分の中で納得しながら提案を考えられるようになりました。」



様々な方が来られた衣川會館お披露目会



佐治倶楽部の総会の様子



専門家の方に指導してもらう



山の頂上から見た青垣町佐の風景

また、経験を積むことで、将来に対して視野が広がり、改修を扱うような仕事に就職したいと考えるようになりました。」

学生にとっては大学の座学だけでは学ぶことができないことを実践的に学べる場となり、職人や住民の方にとっては普段の仕事の中では感じる事ができない新しい刺激・価値観を感じておられるようです。

そして、昨年度には佐治の町中で丹波市の支援を受けながら、三軒目の空き家「衣川會館」を改修し、三月にオープンをしました。そこでも二軒同様のコンセプトのもと、改修を進めました。

私は改修期間中、ほぼ毎日、現場に常駐し、大学生の空き家改修作業の補助や職人との調整作業などに関わりました。三軒目の改修という事もあり、改修中に「どんな作業しているんや？」とか「ここはこうしてほしいなあ」と言いながら、衣川會館に様々な人が訪れ、声を掛けてくれました。十年間に渡る継続的な活動の中で、空き家リノベーションに対する我々の考え方が地域の中に浸透しているように感じました。

地域が主体的に空き家を再生していく仕組み作り。佐治倶楽部の設立へ

現代GPの事業と並行して、「大学に頼るだけでなく、地域が主体となって空き家を活用していかなくやいけない」という思いから、地域が主体となって空き家を活用する仕組みを検討してきました。そして、平成二十三年一月に住民主体による、大学と協働しながら空き家の維持管理・活用を実践していくサークル「佐治倶楽部」を立ち上げました。佐治倶楽部の会員（年会費三千元）は現在約

五十名で、会員になると、前述の空き家リノベーションプログラムで改修した空き家を自由に使うことができます。平日のみのカフェや月1のお花屋等のお試し営業から趣味や特技を活かした教室ごとなど「暮らしを楽しく元気にする」様々な活動の場として利用されています。また同会の財源は会員の年会費や協賛金、施設の使用料、空き家を活用した収益事業等で賄われ、自立した運営を目指して活動しています。

佐治に住む同会会長の足立成人氏は佐治倶楽部について「佐治倶楽部の会員には誰でもなることができ、実際に昔屋や大阪に会員がいます。つまり、佐治の人と都市部の人がネットワークを作れます。なので同会の活動は佐治だけのものではなく、佐治と都市を結び、お互いにとって相乗効果を生み出すような団体になってほしい。」と語る。

また、同会会員の関美絵子氏は「私はインターンで佐治倶楽部の他にも様々な会に出席しています。しかし、佐治倶楽部のミーティングに出席すると、出席者のほとんどが、元々青垣に住んでいる人という事に驚きます。それだけ、地域に密着しながら、活動を継続していることがすごいです。」と語る。

これからも同会では佐治で地域の人々や佐治を想ってくれている様々な人と共に空き家を活かして活動できる場や仕組み作りに取り組みしていきたいと考えています。

「関わり続ける定住のカタチ」の展開

関わり続ける定住のカタチは、丹波市内外で様々な展開を見せ、我々の活動は多岐に渡り、他地域へ派生効果を生み出

しています。例えば、地域のお祭りに参加したり、MAPづくり等、様々な取組を行っています。

その事について、現在、佐治スタジオの연구원であり、学生の時から様々なプロジェクトに関わっていた関谷大志朗氏は佐治スタジオについて「十年の間に、活動は他地域他分野にまで広がりをみせています。地域内では地域行事への参加や、地元高校生との連携など。他地域では、ツリーハウスなど。さらに研究室では、空間本来の魅力を引き出すリノベーションや関わり続けるという考え方が、他のプロジェクトにも受け継がれています。僕は「関わり続ける」二連の活動を、森ができていくプロセスと重ねて捉えています。関わり続けるという考え方の種を蒔き続け、成長した樹木の周りには動物植物が集まり一つの環境を作る。その樹木が種を飛ばし、種はそれぞれの場所に合わせて育っていく。そんなふうな時間をかけて環境を整えられることが「関わり続ける」活動の良さだと思えます。」と語る。

関わり続けるという定住のカタチがデザインする未来

我々の活動は関わり続けて十一年目となりました。私は本年度から佐治スタジオの室長となり、地域再生に取り組んでいます。私は地域再生に大事な事は簡単に答えを出そうとするのではなく、長期的な信頼関係を築く中で地域の方々と協働しながら地域の大きな環境や暮らしを一緒にデザインする仕組みを作ることが、これからの日本の地域再生にとって必要な事なのではないかと考えます。

誰もが住んでみたい、住んでよかった阪南市

文 福永 利尚

○はじめに

阪南市は、大阪府南部に位置した、人口約五六〇〇〇人の小さな市です。北は大阪湾に面し、南は和泉山脈があり、大阪府内では唯一海浜部と山間部が近接していて、丘陵地などからは、関西国際空港や淡路島、遠くは明石大橋などが望めます。市域は東西に八・五km、南北に六・八km、面積が約三六・一七km²です。大阪市の中心部から約四五kmの距離にあり、交通の面では南海電鉄、JR、道路では第二阪和国道二六号線が大阪や和歌山を結んでいます。

自然に富んだ阪南市では四季折々の楽しみがあります。

春は見事な桜並木の山中溪、ビーチバレーや海水浴客でにぎわう白い砂浜の箱作海水浴場（びちびちビーチ）、秋はやぐらが波太神社の石段を一気に駆け上がる勇壮な秋祭り、冬は、澄んだ空気の中、六甲山系や



明石大橋、淡路島を一望出来る銀の峰ハイキングコースなど、子どもから大人まで楽しめるところが阪南市の観光の魅力です。

暮らしの面では、街頭犯罪総数は大阪府内でもトップクラスの低さを誇り、また、自然災害の津波についても地震発生時の浸水予想が比較的少ないと予想されておりあります。安心して暮らせるところが魅力です。

それでは、市長が打ち出した政策の内、建築職の私がこの数年携わった計画や営繕部局が関わったものを中心に紹介させていただきます。

○生涯にわたり学び、地域に還元できるまち

（学校施設）

阪神淡路大震災以降、建築物の耐震化が全国的に行われましたが、本市の学校施設は、予算の関係等で進みませんでした。

平成一〇年代後半になると、本市においても少子高齢化の影響を受け、児童生徒数が小学校はピーク時の約六〇%まで減少、全ての学年で単一学級の学校があらわれ、教育の向上を目指し、より良い教育環境を整備し、魅力ある学校づくりを推進するため平成十八年度に阪南市

小中学校整理統合・整備計画が作成されました。この計画には同時に耐震化や大規模改修の計画が謳われました。

平成二二年度に一つの中学校の改築から始まり、分校を含め十二校あった小学校は来年度で八校になり、耐震化と大規模改修が完了します。中学校の整理統合はまだ行っていませんが、廃校対象校を除き耐震化が行われ、平成二七年度で耐震化が完了しました。

○いつまでも安全に、安心して暮らせるまち

（防災コミュニティセンター）

新耐震構造ではない市役所庁舎の補完機能として、災害時の災害対策本部が機能できる部屋をつくり、災害救援物資の備蓄倉庫、津波避難タワーや防災拠点としての活用を可能にするため、市庁舎に隣接する新耐震構造の民間ビルを購入し大規模改修工事を行い用途変更しました。

平時は、防災意識向上のための資料展示や情報発信基地、防災講演会の開催や自主防災組織リーダーの育成など、安全安心のまちづくりの拠点施設としています。また、研修室の空き時間を利用して健康づくりなどの講習会を開催するなどさまざまなまちづくりを連動させた催しを行っています。

○おもいやりとふれあいがあふれる活気のあるまち

（地域交流館）

小学校の整理統合により使用しなくなった学校を改修し、平成二六年四月に地域交流館が完成しました。

その小学校は明治六年に開校した歴史ある学校で昭和三〇年代から四〇年代の校舎が存在していました。また、この学校区は昭和五〇年代前半に開発などによる人口急増の際、分離校が建設されました。

しかしながら、この地域も少子化の影響を受け、小学校の整理統合が決定し、平成二五年に分離した学校に整理統合することになりました。そして、利用することがなくなった学校は、市民による自主的で公益的な活動、地域での福祉活動及び生涯学習の活動など、幅広く活用していただく会議室・体育施設を備えた地域交流館と公民館、市役所分館との複合施設として生まれ変わりました。

○健やかに、いきいきと自立して暮らせるまち

（病院）

阪南市立病院は昭和二七年に開設後、大阪府南部に位置する泉州医療圏を構成する一病院として、地域における中核病

院としての役割を果たすべく運営を続けてきました。

しかしながら、平成十六年からの新医師臨床研修制度がきっかけとなり、全国的に医師不足が顕在化し、本院でも平成十九年に医師が一斉退職し、内科の入院・外来診療が全面休止を余儀なくされました。その後、医師の招へい活動、経営の改革などを進め、一定の病院機能を回復したものの問題が全面解決に至ったものではなく、市の財政にも多大な影響を及ぼすことになり、病院存続が危ぶまれました。これらのことから、平成二二年に医療及び経営面での専門家による「阪南市改革プラン評価委員会」を開催し、今後の本院のあり方について諮問を行った結果、公設公営では限界であり、公設民営で指定管理者制度の導入が最適であるとの答申をいただき、同年十二月議会において指定管理者が決定しました。

改築に係る費用については、指定管理者が一定の負担をし、可能な限り早期の建て替え、初期投資の建設費の縮減のため、平成二三年四月から建物改築への基本構想策定と設計施工一括発注に向け動き始め、病院という大きな事業、本市においても初めての試みの手法で行われました。

平成二三年四月に基本構想・設計施工の実施要領、要求水準作成を行い、五月には事業者を募集しました。

提案内容を多くの市民に見ていただくため、文化センターにおいて公開プロポーザルで行いました。四社による提案は迫力あるプレゼンテーションで審査委員からも細かな指摘による質疑もあり大

いに盛り上がりました。東日本大震災後とあり、津波被害想定区域ではないところではありますが、津波対策を掲げるものもあれば、電気室については各社上層階設置の提案でありました。耐震構造についても免震、耐震、制震に提案内容は分かれました。

事業者募集の公告から事業者決定まで二か月半に満たないスケジュールで行い、駐車場や外構を除く設計から施工、そして開院までを一年と八か月と異例の速さで完成しました。

現在は入院も一八五床受け入れ可能で指定管理者のもと運営しています。市民の方々の健康と安全・安心なまちづくりをするための大きな意義のある事業であったと思います。



○おわりに

私が入庁し、営繕部に配属になったのは平成六年でした。その当時も昭和四〇年代前後の施設が多いため、施設の老朽化は当時からの課題でありました。施設管理者の方にも大規模改修という認識があまりなかったのかもしれない。民間のマンションであれば積立金で定期的に修理し、資産価値を下げないように行おうのですが、行政の場合は予算主義で、行いたいときに予算が獲得できなければ先送りになってしまい、老朽化が激しくなるばかりです。

今回紹介させていただいた学校施設などは、最近五、六年の事業で、耐震化と同時にありますが、老朽化に伴う大規模改修がようやく進みはじめました。

今年二月に公共施設の将来のあり方を含め、公共施設などの適正な管理を行うため、「阪南市公共施設等総合管理計画」の策定を行いました。今後は、具体的な計画を策定することが重要になってきます。

公共施設はこの市町村も数が多くあり、老朽化していて、維持管理にかかる予算も膨大で、その予算は市にとっても目立った予算ではないのですが、終わることのない必要な予算です。また、人口減少の中、施設を適正な規模にしておく必要があると思います。そのような状況だからこそ、市民に安全で、喜ばれ、価値ある良好な施設を今後とも維持し、または作っていかねければと思っています。

最後に、このように事業を進めるにあたっては建築士の方々や建設関係者の協力なしではできません。どうか阪南市の

発展にお力添えいただけますようよろしくお願ひします。
暑い夏がやってきました。ご家族と海水浴やレジャーに、阪南市へ是非とも足を運んでいただければ幸いです。



福永 利尚

阪南市事業部公共施設活用課課長代理
一九八八年 大阪府生まれ
一九九一年 近畿大学理工学部建築学科卒業
一九九二年 阪南市入庁、事業部や教育委員会、市民病院などで営繕業務に携わる
二〇一六年 現職



暑中見舞 2016

大阪府建築士会役員

見える社会貢献活動へ

宮崎 八郎

宮崎建築設計事務所
大阪市中央区西心斎橋1-1-11
(心斎橋西ビル8F)

柳川 陽文

株式会社 小河建築設計事務所
大阪市中央区博労町1-7-16
(CSTビル)

岡本 森廣

全日本コンサルタント株式会社
大阪市浪速区港町1-4-38

暑中お見舞申し上げます

澤本 侃一郎

株式会社 K&S総合企画
大阪市西区京町堀2-2-1
(スマタビル10F)

上田 茂久

株式会社 上田茂久・建築設計工房
大阪市北区中津1-12-3

田中 義久

株式会社 田中都市建築事務所
(TANATOSHI DESIGN NET)
TANATOSHI Osaka 大阪市中央区本町橋5-14
(OZビル本町橋902)
TANATOSHI Tokyo 東京都大田区上池台1-7-16-218

暑さに負けず、頑張りましょう。

濱田 徹

株式会社 イリア
大阪市中央区城見2-2-22
(マルイトOBPビル9F)

尾鍋 裕実

尾鍋建築設計事務所
藤井寺市小山9-11-17

小嶋 和平

サンヨーホームズ株式会社
大阪市西区西本町1-4-1

徳岡 浩二

株式会社 徳岡設計
TOKUOKA SEKKEI MYANMAR Co., LTD(YANGON)
大阪市北区西天満6-3-11-205
大阪・東京・兵庫・滋賀・九州

森田 茂夫

国際分科会担当理事

山城 健児

コーナン建設株式会社
大阪市北区大淀南1-9-10

熊本県の早期復興をお祈り致します。

横田 友行

株式会社 能勢建築構造研究所
大阪市中央区瓦町3-3-7
(瓦町KTビル)

暑中見舞 2016

建築設計事務所

暑中お見舞申し上げます

人、社会、地球環境との共生

宇澤 善一郎

ア ト リ エ ・ U
和泉市池田下町1699

奥村 雅一

株式会社 アール・アイ・エー
大阪市北区堂山町3-3
(日本生命梅田ビル)

金峰 鐘大

株式会社 I A O 竹田設計
大阪市西区西本町1-4-1

夢ある未来の創造

湯浅 武夫

株式会社 阿波設計事務所
大阪市浪速区元町2-2-12

西村 清是

株式会社 浦辺設計
大阪市中央区北浜2-1-26
(北浜松岡ビル4F)

宮川 明夫

株式会社 綜合積算
大阪市北区東天満1-11-19

亀井 忠夫

株式会社 日 建 設 計
大阪市中央区高麗橋4-6-2

佐野 吉彦

株式会社 安井建築設計事務所
大阪市中央区島町2-4-7

建設会社

竹中工務店

取締役社長 宮下正裕

大阪本店 大阪市中央区本町4-1-13
TEL06(6252)1201
東京本店 東京都江東区新砂1-1-1
TEL03(6810)5000

大成建設

TAISEI

For a Lively World

常務執行役員関西支店長 金井隆夫
<http://www.aisei.co.jp/>

ナイスジョイント

ステンレス製=給水・給湯・冷温水配管用管継手

ISO9001
ISO14001
認証取得

オーエヌ工業株式会社

代表取締役社長 中村政弘

■本社・工場 〒708-0015 岡山県津山市神戸466
TEL (0868) 28-0171(代) FAX (0868) 28-4254

Hyper-MEGA, Hyper-ストレート, HBM工法
NAKS, RODEX工法



日本コンクリート工業株式会社

本社 〒108-0023 東京都港区芝浦4丁目6番14号 (NC芝浦ビル)
基礎事業部 ☎(03) 3452-1081 FAX (03) 3452-1125
大阪支店 〒542-0081 大阪市中央区南船場4-11-28 (Daiwa南船場ビル)
☎(06) 4963-6911 FAX (06) 4963-6916
名古屋支店 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-11-5 (エステート名古屋ビル)
☎(052) 581-0666 FAX (052) 541-2530
四国支店 〒760-0022 香川県高松市西内町4-6 (神原ビル)
☎(087) 897-2984 FAX (087) 897-2986



エレベーター・ダムウェーター
福祉機器

本社：大阪市西区京町堀1-12-20 TEL：0120-07-0570
<http://www.kumalift.co.jp/>



石川工場

水の未来・地球の未来

グリース阻集器の・・・

PPi プレイ工業株式会社

本社・工場 京都府京田辺市大住池嶋25 東日本営業所 神奈川県川崎市中原区中丸子431
〒610-0343 TEL 0774-63-7247(代) 〒211-0012 TEL 044-431-0408(代)
FAX 0774-63-7248 FAX 044-434-2621
<http://www.purepai.co.jp>

一般社団法人 大阪電業協会

会長 前田幸一

〒530-0047
大阪市北区西天満5丁目6番10号 富田町パークビル
TEL (06) 6363-4077 FAX (06) 6363-4079

間仕切の総合メーカー

小松ウオール工業株式会社

大阪市場開発部

代表取締役社長 加納裕

〒550-0001 大阪市西区土佐堀2-2-4
土佐堀ダイビル3F
TEL.06-6447-0441

お客様の満足と価値創造の深化を目指して



一般財団法人

日本建築総合試験所

理事長 辻文三

〒565-0873 吹田市藤白台5-8-1
TEL 06-6872-0391 FAX 06-6872-0784
<http://www.gbrc.or.jp>

住まいに、人に、安心を。

住宅相談・住宅情報提供・各種研修事業
住宅展示場の企画、運営
住宅性能評価機関・住宅保険取扱機関



一般財団法人大阪住宅センター

大阪市中央区南船場四丁目4番3号 心斎橋東急ビル4階
電話番号 06-6253-0071

暑中見舞 2016

建材・設備会社 他

一般社団法人 日本建築材料協会

会長 立野 純三

本部 〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-4-23 撞木橋ビル4F
TEL 06-6443-0345 FAX 06-6443-0348
支部 関東・中部・中国・四国・九州
<http://www.kenzai.or.jp>

一般社団法人

大阪空気調和衛生工業協会

会長 古新 亮英

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-7-20 新トヤマビル3階
TEL 06(6271)0175 FAX 06(6271)0177

学校法人 福田学園

OCT 大阪工業技術専門学校 
OHSU 大阪保健医療大学
OCR 大阪リハビリテーション専門学校

理事長 福田 益和

〒530-0043 大阪市北区天満1-9-27
TEL 06-6352-0093 FAX 06-6352-5995
URL <http://www.fukuda.ac.jp>

一企画から印刷までトータルにクリエイトします

株式会社 日報印刷

代表取締役 井上 務

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-16-7 TEL.(06)6445-6888

中和で出来るこんなコト!

クワアファイル

新機種のオンデマンド印刷により
少量印刷も可能に!

ネットショップ営業中!

<http://chuwa.shop-pro.jp/>

中和印刷

検索

少量から
注文承ります

CHUSSA 中和印刷紙器株式会社

〒640-8225 和歌山市久保丁4丁目53 TEL.(073)431-4411 FAX.(073)431-8188

理事会報告

文責 本会事務局

日時 六月十五日(水)十六時〜十七時三十分

場所 本会会議室

出席 理事三九名 監事二名

(1) 五月の当期経常増減額は、収入一、二、二六〇、七三五円、支出一、一、五五、二〇六円、差引一〇五、五二九円であり、本年度累計の収支差引は四〇、五二五、七七七円を報告して承認されました。

年度当初において大きな変動はないですが、会費収入が昨年同時期に比べて約四〇〇万円の増収で、対予算で八五%を充足しており、入金時期が早まっています。事業では耐震評価業務、CPD登録が好調です。

(2) 大阪建築コンクール運営規定(案)の「審査員の所属する組織から応募がある場合、同作品の審査や選考等に加わらない」とした条項について意見交換をしました。

意見…応募者は審査員の所属企業からは応募しないのが通常の判断であり、国際的にも常識とされている。本会の伝統ある賞に不信感が生じることは、応募数の減少だけでなく本会全体のイメージダウンに繋がる。意見…大阪府主催の建築賞では、応募設計者と同一所属企業の審査員の場合には、当該審査員は当該作品の決議から外れるマナーで運営している。

次回も継続検討することとしました。

(3) 役員は居住又は勤務地の地域に所属して担当地域の活動を主導し、特に地元市町村と連携した地域活動の企画を推進する。

(4) 連合会会長表彰の候補者として、長年の会員歴役員委員歴を踏まえ、これまでの指導ご尽力を賜った功績に対して藤田忍氏、昇勇氏、七堂元敏氏を推薦することを承認しました。

建築相談室から 四

ワンストップサービスを目指して

文 橋本頼幸

本会の委員会に「社会貢献委員会」があり、その中に建築相談に関係した六部会分科会があります。

耐震部会…木造住宅の耐震事業を主に行っています。

インスペクション部会…中古住宅の売買時などでの建物調査をします。空き家の相談も行います。

住宅仲間分科会…新築住宅やリフォームの設計監理をするグループです。

マンション維持管理支援分科会…分譲マンションの維持管理をサポートするグループです。

鑑定業務支援分科会…建築紛争解決や鑑定・調査を行うグループです。

ヘリテージ部会…文化財や歴史的建造物などの保存・活用を目指すグループです。

これらの専門性又は特殊性の高い相談については、適宜各々のグループに電話担当者が案件の紹介を行うことになっています。とはいえ、振り分けるのが難しい案件が少なくないのもまた事実です。

地盤沈下の調査をお願いしたい
電話で開口一番こう言われることがあります。この場合依頼者が何を求めているのかわかりません。耐震診断を希望なのか、インスペクションを希望なのか、あるいは建物の調査鑑定を希望するのか。こういった依頼者の場合は少し突つ込んだ話を聞きながら、相応な分科会に話を振る事を考えます。

弁護士に相談している
電話相談にて「数年前にリフォームしたが排水が流れにくい、樋に不陸があるなど不備があり、

工務店に伝えているが、なおしてもらえない。弁護士に相談中である。」という相談がありました。これまでは、係争中の相談については積極的に関与しないことを申し合わせていたので「弁護士に相談中である」という段階でその旨をお伝えしてお断りしていました。当会には鑑定業務支援分科会がありますので、対応が可能になっております。弁護士からの相談、依頼も可能です。

建築士に対する相談

工務店からの電話相談で「施工が依頼した建築士が設計図を作成しており、工務店は施工主と請負契約を結んでいる。設計図面に不備があり納まりが不明で工事が進められない。施工主からせかされているため、建築士に指示を仰ぐも連絡がなく、数日前に連絡が取れなくなった。施工主に「図面がない」という理由で工期内に完成できない旨を伝えてもよいか？」というもの。

二つ目は、「耐震リフォームを工務店紹介の建築士に見てもらい、補助金申請をしてもらう依頼をした。三月月経過しても連絡がないので、電話で問い合せたら「検討中」との返事で、書類を一切見せてくれない。見積書や契約書すら見せてくれなかった。不審に思っている。」というもの。

三つ目は、「設計事務所に設計を依頼して三階建てRC住宅を計画した。施工は設計事務所での紹介で決めた。外壁に不備があり設計事務所に改善を求めたが、先月から設計事務所の担当者に連絡が取れない。施工業者から工事を進めたいと言われているが、進められない。」というもの。

三件とも建築士の対応が不誠実で、不信を抱かれたようです。連絡が取れないはさすがに建築士会の電話相談でどうしようもないですが、そう思いながらも電話相談をしなければいけなくなった依頼者に同情してしまいます。

編集後記

荒木公樹

『建築人』編集部は、先の定時総会を経て、この六月から新たな体制となりました。編集人代表を四年間にわたり務められた米井寛さんが代表を退任され、私、荒木が代表を務めさせていただくこととなりました。中嶋節子担当副会長、建築情報委員会の飯田英二委員長、牧野隆義理事をはじめ、編集人・事務局スタッフとともに一層の誌面の充実を目指して編集に取り組んでまいります。

『建築人』は、ご存知の通り大阪府建築士会の会報誌です。われわれ編集人一同は、建築士会の取組みや実務に役立つ情報を読者の皆様にお届けするだけでなく、紙媒体だからこそ果たすべき役割を考えながら編集に取り組んでいます。すぐに役立つ情報は、入手が容易である一方、淘汰されるスピードも速い傾向がございます。建築家・横文彦先生の「時が建築の最終審判者である」という言葉を思い起こし、われわれは今後も長い時間の評価に耐える誌面づくりに努めてまいります。

『建築人』が建築士会から会員・社会への一方向だけの情報伝達に留まらず、読者の皆様に参加できるプラットフォームとなることをわれわれは目指します。今号で審査結果を掲載しました建築人賞では、前回から応募者の全員参加で審査会を開催しております。これは、『建築人』を研鑽・交流の場としてご活用いただくことを目指した取組みの一環です。読者の皆様におかれましては、どうぞご支援・ご参加の程よろしくお願い申し上げます。



cye



Begin a day

日々に新しい彩りを

CYE (サイ)はインダストリアルな要素をシンプルな機能とデザインに再編集したレトロでモダンな水栓シリーズです
株式会社 三栄水栓製作所 www.san-ei-web.co.jp

SANEI



NU茶屋町プラス 株式会社日本設計

NU茶屋町プラスは、大阪梅田地区の一角にある茶屋町に、「茶屋町東地区第一種市街地再開発事業」として平成23年に完成した再開発プロジェクトの中にあり、合計7棟の棟から構成される再開発地区の中心となる施設である。NU茶屋町プラスは3階の商業施設と、その上階に中間免震層を介して31階建ての超高層マンションを配置した複合用途の施設である。

再開発街区の外周部に設定した壁面後退による空地を、ケヤキやエゴノキ等で緑化した気持ちの良い歩行者空間として整備するとともに、各建物の低層部に路面型店舗を配置することで、茶屋町地区の街の賑わいと一体となった活気のある歩行者空間をつくりだすことを目指した。

NU茶屋町プラスは、隣接敷地にあり先行して完成している茶屋町西地区再開発(NU茶屋町)の施設と共通の外壁素材を用いるとともに、ケヤキによる並木を対面させ、街路照明やストリートファニチャーをそろえることで、通りを挟んだ一体的な景観をつくりながら、洗練された商業都市空間となっている。

NU茶屋町のコリドーを抜けた正面に設けたプラスのエントランスには壁面緑化による館名サインを設置し、NU側のテラスと対面させることで立体的な賑わいを演出する3階のテラスには緑化ウォールや屋上緑化スペースを設けることにより、建物内外の景観に潤いと華やかさを添えている。

撮影：株式会社 伸和 第35回大阪都市景観建築賞緑化賞受賞作品

■プロフィール

山口泰弘(やまぐちやすひろ)
1961年 大阪府生まれ
1984年 京都工芸繊維大学卒業
1986年 京都工芸繊維大学大学院修了
1986年~日本設計
関西支社建築設計部チーフ・
アーキテクト

■建物データ

設計：株式会社日本設計
施工：株式会社奥村組
所在地：大阪市北区茶屋町8番23号
用途：共同住宅・商業
竣工：2011年6月
構造：鉄筋コンクリート造・鉄骨造
規模：地下1階、地上31階、塔屋2階
敷地面積：5,131.22㎡
建築面積：2,968.34㎡
延床面積：33,828.61㎡

